

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算      支出科目    款：衛生費    項：医務費    目：医療整備対策費

<b>事業名    救急患者退院コーディネーター事業費補助金</b>
------------------------------------

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部    医療整備課    医療整備係    電話番号：058-272-1111 (内 2588)

E-mail：[c11229@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11229@pref.gifu.lg.jp)

**1    事業費                                    10,584 千円 (前年度予算額：10,561 千円)**

**<財源内訳>**

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,561	10,561	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,584	10,584	0	0	0	0	0	0	0
決定額	10,584	10,584	0	0	0	0	0	0	0

**2    要求内容**

**(1) 要求の趣旨 (現状と課題)**

- ・救急搬送件数が年々増加する中で、救急医療用の病床を長期間使用する患者がいると、新たな救急患者の受け入れが困難になる恐れがある。急性期を脱するも、重度の合併症、後遺症により在宅復帰が容易でない患者を受け入れる医療機関や介護施設等と、救急医療機関が連携することで、当該患者を円滑に転棟・転院できる体制を確保し、救急専用病床を確保する必要がある。

**(2) 事業内容**

- ・急性期を脱した救急患者の円滑な転床・転院を促進し、救急医療用病床を有効に活用するとともに、医師等の負担軽減を図るため、施設内、施設間の連携を担当する専任者(コーディネーター)の配置に対する支援を行う。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

- ・国庫補助金 (医療提供体制推進事業費補助金) の活用  
 ※補助率 1 / 3 (国 1 / 3)

#### (4) 類似事業の有無

- ・ 類似事業なし

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,584	急性期治療が終了した救急患者の転院先コーディネートに対する補助金
合計	10,584	

#### 決定額の考え方

#### (1) 各種計画での位置づけ

- ・ 岐阜県保健医療計画（第7期）

第3部－第2章－第6節救急医療対策－7今後の施策

『救急医療から療養の場への円滑な移行がなされる体制づくりを促進するため、救急医療機関が行う退院調整に要する経費に対する支援を行います。』

#### (2) 国・他県の状況

- ・ 厚生労働省は、医療提供体制推進事業費補助金に個別メニュー（救急患者退院コーディネーター事業）を設け、救急医療提供体制の充実化を推進している。

#### (3) 後年度の財政負担

- ・ 国庫補助金を活用し、事業実施要望があればこれに補助する。

#### (4) 事業主体及びその妥当性

- ・ 保健医療計画上、初期・二次救急医療機関による救急医療体制の構築・運営への支援を明記していることから、事業主体が県であることは妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
1 日平均退院患者数 （人）	625.0 人 （H26）	636.7 （H29）	636.0 （H39）	625.3 （R1）	650.0 （R3）	96.2%
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
以下の医療機関において、救急患者退院コーディネーター事業を実施  
・高山赤十字病院・松波総合病院、木沢記念病院、鷺見病院

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
地域の医療機関や県外の医療機関との連絡調整を行い、急性期治療を終了した患者の退院調整を行う地域連携室等が設置されている。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	救急患者退院コーディネーターの配置は、増加傾向にある救急搬送患者に対する迅速かつ的確な医療提供に繋がるため、必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) —	平成 28 年度から事業を実施しているが、指標となる数値が集計されていないため、有効性を判断できない。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	地域連携室等を設置して、入院患者の円滑な転院・転棟に取り組む医療機関に補助している。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 救急搬送患者数は増加傾向にあるため、救急医療用病床の確保対策が必要である。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 救急医療用病床の確保に資する事業であり、継続する。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	